

年頭にあたって

理事長 石井謙一郎

あけましておめでとうござい
す。新しい年を迎え、岳連の皆
さんはそれぞれ新たな山行計画
胸を躍らせていることと思
います。領呂もしばらく途切れてご迷惑を
かけておりましたが、本年からよ
うやく続けて発行し、皆さんに各
部会や岳界の情報が提供できる運
びとなりました。皆さんの意見や
主張も大切に、育てていきたい
と思いますので奮って投稿され
ようお願いします。

上の問題点や対策なども研究され、
開催地からの情報の収集も徹底的
になされる傾向にあります。本県
は秀れた山岳県であると共に、全
国的に見てレベルの高い岳人がた
くさん揃っております。岳連が一
体となってこれにあたれば、必ず
や従来どおり優秀な成績をおさめ
ることができると確信しておりま
す。山岳が国体において高い得点
をあげることは、とりもなおさず
本県の体育界に貢献できるという
ことなのです。そのための方策と
しては、各会のリーダーが国体登
山の認識を新たにして、少くも
も各会から二名以上の候補者を推
せんし、選出するなど、多くの
中からの候補者を強化した上で選
出したいと考えております。また、
あらかじめ監督を先に決定してお
いて、監督に各会のめばしい選手
を推せんさせ強化していく方法も
あり、是非はともかく、あらゆる
方法を模索して優秀な選手を確保
したいと思っています。

と考えています。競技運営は、審
判、輸送、宿泊、式典などの細部
にわたって研究を重ね、各担当者
は日山協の指導を受け、新しい情
報なども積極的に収集していつて
いたきたいと思っています。

今、私はこれは岳連の急務だ
と申し上げました。しかし、これ
が岳連の活動の全てでないことは
言うまでもありません。山岳遭難
の予防や救助、或いは安全登山
の普及、啓蒙、知識を得るための
研修、海外登山の研究と実践、自
然保護活動、あかき国体後のブラ
ンなどほかにもすべきことはた
くさんあります。特に、国体が終
て何もなくなったでは話になりま
せん。今から長期的視野と展望に
基づく次の行動への下地を作るこ
とが大切です。また、岳人の本来
の使命は、より高い、より困難な
山に挑むことですが困難な登山、
大きな登山を行うためには、どう
しても私達岳連だけでは為し得な
い問題をたくさんはらんでおりま
す。地域社会にお願いし、協力を
求めなくてはできない事柄もあり
ます。と言うことは、国体などで
優秀な成績をあげておなくては、
やれ今度は何処其処の山へ行った
いからお願いしますといつても誰
からも相手にされなくなるとい
うことなのです。一生懸命やっ
て、努力している、だからお願い
したいという気構えと行動が伴わ
なくてはなりません。皆さんには
このことを十分認識し、私のこ
の方針を踏まえて協力していつて
いただきたいのです。

次に、岳連の活動について、五
年度は各部会のキャップをもつ
て構成する企画部会を設けて、各
種の行事の調整や、質の高い行事
をセレクトして活動することを入
度頭初に申し上げておきました。
が、未だに実行されておられません
私の指導の至らなさを痛感してお
りますが、これは是非実行したい
と考えています。第三四半期を過
ぎてかえりみるに、少し事業が多
過ぎたため、それぞれの山岳会内
部との行事の調整が大変だったと
反省しています。各会との交流も
大切な行事の一つですが、山岳連
盟は、文字とおり各組織の集合体
です。基本的には、自分の山岳会
の組織を固めて活動し、会独自で
は為し得ない行事や活動を取り上
げて行うことが望ましく、量の消化
よりも質の向上につとめることが
肝要です。そういう意味で質の高
い行事をセレクトしたいと考えて
いるのです。そうすれば、冗費を
省き、限られた少ない予算も有効
に活用できることになるので
適切に支出できることになるので
す。

最後に、各山岳会がそれぞれ秀
れた後継者を求めているように、
岳連でも次の世代を担う能力ある
人材を求めています。特殊な技能
知識を持った者、或いは、実力が
伴い、発想、企画、文章力等に秀
れた者など隠れた人材を掘出した
ために、各種の行事担当者の中に各
会が推せんするメンバーを加え、
活動できる機会を与えることが必
要であると考えます。現在は、理
事のほかに指導員会や遭難救助隊
や、海外登山研究会若しくは
国体対策委員会と活動できる場が
たくさんあります。これらに積極
的に参加し、また、他の者も人
材発掘に努力し、何か行事を行う
時には何処の会に誰がいるなど推
せんして活動し易い環境作りにし
て欲しいのです。

以上、年頭にあたり私の所感を
申し述べました。本年も安全登山
に心がけ、皆さんのご健康を祈念
し、皆さんの山岳会と共に群馬県
山岳連盟がますます発展されるこ
とを願いつつペンを置きます。

さて、年が変って、あかき国体
にまた一歩近づいた感じがいたしま
すが、年頭にあたり、私の所感を
一、二申し述べてみたいと思いま
す。

その一つは、岳連のさしあつ
ての急務は、あかき国体の準備と
国体で優秀な成績をあげること
にあります。ご承知のように、昨年
の栃の葉国体から山岳競技も天皇
杯、皇后杯の得点種目となりまし
た。各県が山岳競技に一段と力を
注ぎ、今まで目立たなかった県が
急に優秀な選手を送り込むよう
ななつてまいりました。今年はま
ます秀れた選手が集まるものと予
想されます。加えて、山岳競技規則

あかき国体の準備は、昨年で一
応コースの調査を終えました。本
年は更にコース上の細かい問題点
を検討し、調査を進めていきたい
です。

と求めています。国体などで
優秀な成績をあげておなくては、
やれ今度は何処其処の山へ行った
いからお願いしますといつても誰
からも相手にされなくなるとい
うことなのです。一生懸命やっ
て、努力している、だからお願い
したいという気構えと行動が伴わ
なくてはなりません。皆さんには
このことを十分認識し、私のこ
の方針を踏まえて協力していつて
いただきたいのです。

次に、岳連の活動について、五
年度は各部会のキャップをもつ
て構成する企画部会を設けて、各
種の行事の調整や、質の高い行事
をセレクトして活動することを入
度頭初に申し上げておきました。
が、未だに実行されておられません
私の指導の至らなさを痛感してお
りますが、これは是非実行したい
と考えています。第三四半期を過
ぎてかえりみるに、少し事業が多
過ぎたため、それぞれの山岳会内
部との行事の調整が大変だったと
反省しています。各会との交流も
大切な行事の一つですが、山岳連
盟は、文字とおり各組織の集合体
です。基本的には、自分の山岳会
の組織を固めて活動し、会独自で
は為し得ない行事や活動を取り上
げて行うことが望ましく、量の消化
よりも質の向上につとめることが
肝要です。そういう意味で質の高
い行事をセレクトしたいと考えて
いるのです。そうすれば、冗費を
省き、限られた少ない予算も有効
に活用できることになるので
適切に支出できることになるので
す。

最後に、各山岳会がそれぞれ秀
れた後継者を求めているように、
岳連でも次の世代を担う能力ある
人材を求めています。特殊な技能
知識を持った者、或いは、実力が
伴い、発想、企画、文章力等に秀
れた者など隠れた人材を掘出した
ために、各種の行事担当者の中に各
会が推せんするメンバーを加え、
活動できる機会を与えることが必
要であると考えます。現在は、理
事のほかに指導員会や遭難救助隊
や、海外登山研究会若しくは
国体対策委員会と活動できる場が
たくさんあります。これらに積極
的に参加し、また、他の者も人
材発掘に努力し、何か行事を行う
時には何処の会に誰がいるなど推
せんして活動し易い環境作りにし
て欲しいのです。

以上、年頭にあたり私の所感を
申し述べました。本年も安全登山
に心がけ、皆さんのご健康を祈念
し、皆さんの山岳会と共に群馬県
山岳連盟がますます発展されるこ
とを願いつつペンを置きます。

士気あがる救助隊

結成以来十周年を迎え、県岳連
の中核として活動出来るのも各加
盟団体の御協力のためものと深く
感謝しております。

行事予定

一月
24 冬山合宿報告会
25 日山協海外登山技術研究会
二月
24 理事会 八王子
25 関係地区別審判員講習会
三月
14 競技役員養成講習会 東京
15 中央競技団体指導 川場
10 雪上救助技術訓練 八王子
8 審判員研修会 黒岩

隊員のチームワークの良さがある
と思います。
こんなエピソードもあります。
秋の日は、つるべ落としと良く言
たもので訓練に熱が入りすぎ、時
も忘れ下山途中真つ暗。救助隊が
救助される事もありました。
又悲しい思い出は良き指導者が
速くヒマラヤで逝去したことであ
る。心から御冥福をお祈りします。

さて、救助活動中の隊員の様子は、
自分の生死を構わずにみず立ち
向い、安全・確実、早くを目標に
作業を進めている姿を見ると、本
当に頭の下る思いです。救助のか
いなく息を引きとった姿を見ると、
自分の責任の重さをながし、反
面無事な姿を両親に逢わせた時な
ど、安堵の様子が全身より伝わ
てくるのが感じられる。この様な
体験をみるにつけ、良くこころ迄
成長して来たものであると思いま
す。
成熟期に入った救助隊身分保障
等の若干の問題はあるにせよ、隊
員の士気は高く、その使命に燃え
安全・確実・早くを合言葉に皆
ががんばっております。今後も各加
盟団体皆様の心からの御支援、御
協力をお願い致します(文責加藤)

昔、貴き聖が、この嶺の頂に立つて、東に落つる水も清かれ、西に落つる水も清かれと祈つて菩薩の像を埋めて置いた」と言つ、中里介山の大菩薩峠の書き出しの下りがある。大菩薩峠の水は一方で多摩川、他方で笛吹川となつて末永く人を潤し、田を実らせたとのこと。中里介山と中里村とのかわりは知る由もないが、二、三、西上州の神流川（かんながわ）流域、現在の国道二九九号線で十石峠、現在の国道二九九号線で十石峠街道と呼ばれる）で、特に中里村と万場町をはさんだ地域の南北の山波は峠が多いことで知られている。峠は勿論生活道である。前述の菩薩の像ではないけれども人々の暮しと密接なかわりをもつて発達した道である。西上州へは隣の佐久地方から豊富な物資が十石峠を越えて運ばれ、南の峠は秩父との物資の輸送に、北の峠は甘藷との交流のためにそれぞれ発達したものとされている。

今回は、峠で結ばれた縦走コース

＝ かくされた山 ⑫ ＝

峠で結ぶ山々

五万圓・万場

群馬独峰会

六五米）を結ぶコースを紹介したい。峠へ下つてまた山を越える縦走は、大変なアルパイトであるがこれが西上州の山の特質とも考えられるので、体力トレーニングを兼ね、是非一度は訪ねて欲しいと願っている。

①石神峠 東御荷鉾山 投石峠 ケ山まではほとんど下り込みであるが、スーパ―林道が入って来ても、山道が切継され一寸注意を要する所である。稜線に沿って歩くよう

(一泊三日コース)

御荷鉾山は、かつて岳連で登山大会を催した山であり、既に歩かれている方も多いと思われる。しかし、右に書いたように、全行程の標高差は僅かに約六五〇米に過ぎないが、峠は全部で六つ越えることになり、登山大会で歩いたコースと全く趣を異にし、結構面白い山行となろう。

心がけたい。右手にオドケ山が見えてくるが、巻かずに山頂を踏んで欲しい。オドケ山から（二一六四米）塩沢峠（二〇七三米）へはこれも下り一方の道である。塩沢峠から赤久縄山までは約五キロの行程であるが、こゝもスーパールイン道が入っていて登山道が切断されているので注意を要する所だ。赤久縄山頂はこの付近の最高峰であ

アブローチは、バス利用で藤岡から万場へ行く上信バスが出ている。下久保ダムを過ぎ、神流湖の上流「法久」でバスから降りる。

石神峠（八十一米）へは、法久の部落内を通る。バスから降りて約二時間位の行程である。西に東御荷鉾山を望みやがて峠に着く。峠からは稜線に沿って登るが余り急なところはない。広葉樹林帯のため秋の山をすすめたい。北に赤城榛名、妙義の連山を一望し、南は奥秩父の連峰が望まれる。山頂から投石峠（二〇二米）への道は下り一方である。投石峠とは、この峠から昔鬼が石を投げつけ、その石の落ちた所が現在の鬼石町であるとの言い伝えがあり、この石

つえたととうげ）へは幾つかのピークを越す長い下りである。峠と言っても標高は一四三四米あり、最後は登りになってくる。比較的感じのよい樹林の中の道だ。その峠に差ししかり、持っていた杖を地面に刺し込んで、その杖から根が出たて来てやがて葉も出て樹木になつたと伝えられ、杖植と書いてツエ植と読ませる由来の峠である。峠の西方へ二、三分下った所に水場もあり、第一目の幕营地としたい。ただし、冬期は水が枯れてい

二日目
杖植峠から日向山（一四四七米）へはだらだらしたゆるやかな登りである。また、八倉峠（いおくらとこげ二五七米）もゆるやかな上りで二日目の歩き始めとして楽しいコースである。八倉峠からは杖植峠から日向山（一四四七米）トルネル脇から稜線に登る。尾根通しに小さなコブを幾つか越すとやがて杉ノ峠（八八五米）に着く。土坂峠の標高が七七〇米であり一五米ほど登ることになる訳である。北側は伐採されていて万場の武バスが運行されている。

子山からは、尾根伝いに志賀坂峠（八七六米）へ下り、中里村へ行くか或は、山頂から坂本の部落へ下り、志賀坂峠をこえて中里村へ出るかどうかでもよい。峠までは群馬県側は上信バス、秩父側は西武バスが運行されている。

里村或いは下仁田方面へ下って町が望まれる。御荷鉢山は真北のも差支えないが、あと一踏んばり方角である。杉ノ峠とは、その名目陸山へ登ることにする。時間にとおり杉の太木があつて御神体として祭つてある。父不見山へは	コースタイム 坂峠 0:40 杉ノ峠 0:40 父不見山 0:30 坂九峠 0:30 三子山 1:30 志賀坂峠 0:40 坂本 0:40
---	--

中に里村や下仁田方面の部落も望まれ、ゆるやかなコースを下つて沢尻峠（二四一米）に着く。八ヶ岳と同様、上野村から仁田へ下るコースがあり、どちらへ下つても八ヶ岳からの下りと同じ位の約一時間半の行程で下ることができ、僅かに距離で三〇分程行くと山頂に着く。南面の眺望がきかない所だ。父不見山から坂九峠（八五八米）へはなだらかな下りであるが、や、道が不明瞭になるので氣をつけて歩きたい。屋久峠（八〇〇米）も同様である。屋久峠は、秩父事件の際、官憲に追われた暴徒がなお、志賀坂峠から中里村神原までは歩いて約一時間半の行程と思われる。峠を結ぶ縦走は以外と楽しいものであるが、西上州までのアプローチが大変だとの声が出るかもしれない。その時は仲間と話し合い、誰かが車を回送してサポートしてやることが望ましい。

以上のコースは、一昨年、高崎地区山岳協議会でコース整備を行なった。この峠を越えて本県に入り村々を荒して十石峠を越え長野県へ入ったとされている峠である。屋久峠から三子山へは、一旦沢沿いに下りまわり込む道もあるが、稜線を行くことも出来る。七つほどピークをこえ忠実尾根を通って二子山へ下る。後冬期谷川岳登山、北阿

コースタイム
石神峠 1:00 東御荷鉾山 0:40 投石峠 1:00 西
御荷鉾山 0:40 オドケ山 0:40 塩沢峠 1:30 赤
久遠山 2:00 杖植峠 (油) 杖植峠 0:45 日
向山 0:30 八倉峠 0:50 日陰山 0:40 檜沢峠 2:30
上野村

②土坂峠・杉ノ峠・父不見山・坂
丸峠・尾久峠・二子山・志賀坂

(日帰りコース)
上信バス万場営業所から歩くこ
にする。土坂峠までは、車道が

子山頂に着く。石灰岩の山で、乾
いており、楽しい岩登りも出来る。
当会は毎年秋にこゝでザイル祭り
を行い、クライムを楽しんでいる。
二子山の山頂からの眺望はすばら
しい。秋には東京や埼玉からのク
ライマーに混ってたくさんのハイ
カーが山頂で眺望を楽しむ姿を見
る。南は両神山(一七・三三米)西
に天丸山(二五・〇五米)諏訪山(一
五四九米)県境を越えた信州側
に御座山(おぐらやま二二二米)

ルプス全山縦走、上信国境鳥帽子
岳東壁の開拓等行う。
会員の中からK2遠征、南米ア
コンカグア遠征、グランドジョラ
ス北壁登攀、ミディ南壁登攀等着
実に力をつけてきて次の機会を狙
う者あり、気力旺盛である。

現役会員 三十名
山岳会事務所
前橋市南町四一・三二一三
藤沼方(☎二二・五二五五)
代表者 藤沼 芳雄

群馬独峰会紹介

谷川岳を中心に岩登りをやつた連中が集り山岳会を結成し、昭和三十三年に發足した。以来、北アルプス等活動の場とする。戦冬期谷川岳縦走、北アルプス全山縦走、上信国境烏帽子東壁の開拓等行つた。

會員の中からK2遠征、南米アンカグア遠征、グランドジョラ北壁登攀、ミディ南壁登攀等着者あり、氣力旺盛である。

現役會員 三十名

山岳会事務所
前橋市南町四一三—一三
藤沼方(☎二二五三五五)
代表者 藤沼 芳雄



概 念 圖

初登頂シャルミリCB53(6096m)とラダック・ザンスカールトレッキング

80群馬高校教職員インドヒマラヤ登山隊長 村上 泰 賢

7月22日デリー出発。二日かか、設したのは、7月30日であった。つて山の町マナリへ着くと、登山学校を訪れ、ポーター、コックの手配をうけ、バスでロータールパスを越えた。高体連登山部の企画した登山隊は、名称こそ外部の雑音で変更になっても、心はあこがれのCBの山々を目の前にして燃えていた。

7月27日登山班11名はポニーと共にBCへ向けて出発。前日のクンザラ往復で少しはくになつてもまだ重い頭と身体をはこんだ。途中ワイヤーブリッジやモレレン突破に手間とり、やっとBCを建

54の張り出した尾根を廻り込んでついにCB53の全容が現われた。8月5日、C2建設正面の雪壁に500mのロープを固定し、C3はとりやめ、すぐアタックすることにした。

8月7日、第一次アタック。前日のルート作のフィックスドロップに導かれ頂上稜線に出た。稜線から思いがけないガラガラ岩の岩根となり、岩塔をトラバースしてダウンしたり、大きな亀裂をまたいだり、ボルトを打ち予備のメ

インロープまで張ってしまった。下では今日はだめかと気をもみはじめるころ、14時58分、ついに初頂の声をトランシーバーが伝えてきた。つづいて8日第三次隊、降雪にさえぎられたあと11日に第三

次隊が成功し、全員登頂の夢を果たすことができた。

BCへ下ったあと永河上流の山々を調査した。サムンダラプ永河は上部が迷路のようなクレバス帯で上流の山へ近づくことは、かなりの時間を要する。カンディキ永河はおだやかで、ほとんど廻るとCB10の美しい山谷や、CB37

とCB28などがそびえ立っている。最奥部は、まっ白い雪原に山波がそそり立ち清浄な美しきであった。それらキキング。4名が別行動隊としてラダックからザンスカールをトレッキングし、三週間の中にBCへ到着、珍らしい風物に接してきた。

シャルミリ(恥ずかしがりやの娘さん)のCB53はなかなか姿をとらえにくい山なので、登頂後シ

ヤルミリと命名し、IMFへ申しこみました。

二年半に亘る準備の間、御支援下さった浜名会長はじめ岳連の皆さんに感謝申し上げます。

登山リーダー村上泰賢(中条高サプリーダ大沢 清前橋高内 新花の茶屋にて開かれました。本年は群馬岳連より二つの組織がインド・ヒマラヤを実施しました。来年には前橋山岳会の計画もあり、今後増えると思われるインド・ヒマラヤに的をしり開催しました。

インド・ヒマラヤに精通している日本ヒマラヤ協会の日本ヒマラヤ会議と共催し県内外より参加者を募り、関東全境及び仙台や金沢市の遠方からも参加者がありインド・ヒマラヤの関心の高さがうかがえました。

第五回海外登山技術研究会

群馬県山岳連と日本ヒマラヤ協会の共催により十一月二、三日の二日間にあたり前橋、敷島公園内、新花の茶屋にて開かれました。

ケタルナートには山田昇氏(沼田)が参加されており群馬県内のインド・ヒマラヤ登山の経験者が多く生まれ、情報入手が容易になった。

短期間で済むインド・ヒマラヤ登山を盛衰する結果となりました。各隊とも御苦労さまでした。海外登山研究会 石川忍

ダウラギリI峰報告書完成

稲田定重氏のインド・ヒマラヤのすべ、田中壯信氏の高所医学支援を受けて実行された、ダウラギリI峰遠征登山に関する報告書が「峻峻の白き尾根」として完成致しました。

希望者に頒布することになりましたので、加盟団体でまとめて申し込んで下さい。なお残部に限り有りますので早目に申し込んで下さるようお願い致します。

限定 二千部
頒価 三千九百円
申込 八木原国明
住所 前橋市昭和町三ノ五
電話 三三三・三三三・二六八三

なお、八木原宅が不在のときはイセサキ石井スポーツ(三三三・二五〇・二七)又は川辺宅(三三三・三三三・二七)まで。

バギラティII峰登山

80群馬ガンゴトリ登山隊 隊長 安中 秀子

今朝、日溜りの中で、咲き遅れのコスモスを見かけた。つまらぬ感傷とは知らず、帰路キヤラバンで目にした、ガンゴトリの風に揺らぐコスモスの花を思い出した。くろうさま。しかりね。とても

あの日、晴れあがった空の下、不思議な感慨でヒンズーの寺院を見あげた。そう、我々は全員無事で帰れるのだ。2人だけだった山頂にもたてた。

1年余ヶ月の準備期間が無我夢中のうちに通り過ぎていった。ポーン飛びかう日本語、狭い地域に能力は欲求に誘惑され日本隊だけで7隊もいるという。

20・21日と降雪。2日間の荒天の後にはまよいばかりで、枯れ野が一面の雪景色に変身していた。一昨日に続いて、荷上げ再開する。キヤトランギ永河にそったサイドモレレンの上に足跡をつけ、めざす山を北からまわり込んでいった。II峰の北稜末端を通過した所で道は直角に折れ、広いゴロ状を上へへへと進んだ。

単調なルートで、単調な仕事のくり返しが続く。高度が新しくなる度に何らかの症状をだして苦しむ隊の面々。それでも2度目に同じ所を通る時には冗談の一つ、二つはできるようになり、ホッとした。

C₂からC₃、C₃から山頂へは、右往左往しながら進んでいた。易しい所を拾いながら登高路を選ぶ。当初、III峰とのコル側へルートを求めた。しかし、絶壁とオーバーハンク以外何も見つけられず、「こんな所が最高到達点になるのはいやだ」と思った時の寂しさは、なんとも形容しがたかった。

C₃と言ったって、大きな山のA、B、C位の高さきりないんだ。幾日だってここでがんばるはずである。弱くなっている心を騙しながら、山頂への意志をつなぐ。

10月2日、双耳峰の低峰へ着いた。あの時、低い方でもとにかく登れてよかったと考えた。しかし、その安心が、その後の闘争心を多くのメンバーから奪っていた。

3日後、浅野・安中が山頂を踏んだ。午後3時であった。帰国して2ヶ月が過ぎようとしている。登って帰ってくれば、出発前の不安なデケロリと忘れて、登れてあたりまえのような気持が大きき支配してくる。人間で横柄だと思ふ。虚構を想像に換えながら、私達はそうやって一つずつ生きたる自信を身につけるのかも知れない。

お世になつた多くの方々、いろいろありがとございました。

隊長 安中 秀子 渉外
副隊長 浅野さつき 装備・渉外
隊員 久保塚隆子 医療・会計
古島 君子 装備・渉外
増田伊世子 食糧
松本実千代 食糧・梱包
船水久美子 食糧

群のシャルミリ峰(六、〇九六m)と

第三十五回 国民体育大会報告

国 体 部

一、関東地区大会

期日 七月十一日～十三日

会場 神奈川県丹沢山塊(塔ノ岳)

・鍋割山周辺

群馬県選手団

○成年女子 △監督 石川忍 桐

生▽選手 竹野君代(沼田)木

村文江、森下緑(以上桐生)○少

年男子 △監督 大谷清(高崎工

高▽選手 平野靖(高崎工高)

綿貫久次(中之条高)蓮見一弘(

伊勢崎工高)○少年女子 △監督

田島正孝(渋川女高)▽選手

飯塚葉子(渋川女高)市川みさ子

(富岡東高)折田みつ江(中之条

高)

成績結果

○成年女子 一位 神奈川 二位

東京、群馬 ○少年男子 一位

茨城 二位 山梨、群馬 ○少年

女子 一位 茨城 二位 群馬

三位 千葉 成年女子・少年男子

は同順位となり、抽選の結果国

体出場権を得られなかった。

二、栃の葉国体

期日 十月十一日～十七日

会場 栃木県日光山系

群馬県選手団

○成年男子 △監督 高橋啓太郎

(カモシカ)▽選手 金井敏夫、

長沼美明、佐藤光由(以上ミヤマ

○少年女子 △監督 大谷清 高

峠工高)▽選手 飯塚葉子(渋川

女高)市川みさ子(富岡東高)折

田みつ江(中之条高)

山岳競技会場は、日光国立公園

の中心的な位置にある二千メー

ル級の山々が対象となり、女峰山、

白根山、黒檜山、太郎山に縦走競

技コース、女峰山南麓と日光市南

の鳴虫山に踏査競技コース、中樺

寺湖西方の赤岩滝に登攀競技ル

ーが設定された。

成績結果

○天皇杯(男女総合) 得点

①栃木17・5点②長野10点③

岩手9点

▽皇后杯(女子総合) 得点

①栃木14・5点②長野10点③

愛媛10点

▽種別総合成績

成年男子 ①栃木②神奈川③長野

⑧群馬

成年女子 ①栃木②長野③神奈川

①栃木②長野③岡山

①愛媛②栃木③長野④

群馬

▽種目成績

成年男子 ①栃木②大

阪③長野④群馬

成年女子 ①長野②神

奈川③栃木

少年男子 ①栃木②長

野③岡山

少年女子 ①愛媛②栃

木③長野④群馬

成年男子 ①栃木②神

奈川③長野④群馬

成年女子 ①広島②栃

木③東京

少年男子 ①栃木、滋

賀③広島、徳島

少年女子 ①栃木②愛

媛③長野④群馬

成年男子 ①神奈川②

栃木③茨城④群馬

成年女子 ①神奈川②

栃木③長野

国体山岳競技は「栃の葉国体」

から正式種目として、他の競技種

目と同様に、天皇杯・皇后杯の得

点源となった。各県の動きとして

は、「ヒマラヤ遠征資金を県から補

助してもらったためには、国体で上

位入賞を果たさねば」という話を

聞くほどエスカレートしている。

本県選手団は非常に健闘したが、

今一歩という結果に終わってしまった。

原因は体力不足で日常の体力

トレーニングに問題があった。土

曜日の強化トレーニングだけで

は基礎体力は向上しないし、スケ

ジュールとしても、技術向上を目

的とした強化トレーニングであり、

選手自身の取り組み態度が不足し

ていたと思います。特に縦走競技

における特別区間の制限時間内踏

破は、体力に裏付けられるもので

あり、また、成年男子の登攀、少

年女子の踏査の成績は、努力した

ことが順位として表われておりま

す。

最後に、「あかき国体」に向け

た選手強化の第一歩は、正式種目

第一年目としての成果は達成され

ませんでした。次に開催される

滋賀、島根両国体では着々と競技

力向上を計ってまいりたいと思

います。

(文責 女屋等志)

岡部勇君のこと

鶴翔山岳会 定方良輔

青天のへきき、文字通りに逝

ってしまった。十一月十四日、生

家アジア近くの墓地に納骨さ

れた。その日上越国境は吹雪、お

もい冬雲のかすめる山々は、こよ

なく山を愛した一人の男の眼に

暗い影をのこした。

生活のため山から遠ざかる時期

があつたが、鶴翔の現役時代はト

ップメンバーとして活躍し、その

後も後輩の面倒をよくみた。

青春の一頁としての登山ではな

く、ライフワークとしての山が彼の

生活の中につかり根を張ってい

た。目も口も鼻も一緒に笑う

彼特有のしぐさが、あけなく消

えてしまつて残念でならない。

この稿をお借りし、故人に代り

御厚情を御礼申し上げます。

岳界通信

第二回岩登り競技会

川場村の赤沢に、隠れていた岩

場が脚光をあびた。11月8日に行

なわれた第二回岩登り競技会は21

名参加して6名が完登するという

昨年よりは厳しいものとなった。

1位2位は新井兄弟(藤岡)この

2名は、七月に開催された日山協

主催の第4回岩登り競技会に出場

しているだけに余裕のあるフリー

クライミングで昨年の1位である

松永氏(沼田)を3位に押えてし

まった。コース設定は金沢氏(藤

岡)で本人は「ヒマラヤには直接

通しない技術かも知れないが、

岩登りでもトレーニングの必要性

がある。フリーで登る楽しさ」を

強調して自らデモストレッチも務

めた。予選で2位であった塩野氏

(沼田)は決勝で惜しくもホール

ドをはずし、岩登りの基本は忘れ

てはいけなと失敗を反省してい

た。これからの競技会では普段か

らの筋力トレーニングとボルダリ

ングをはじめ高度のフリークライ

ミング技術が必要となるであろう。

なおこの岩場は川場村の関氏をは

じめ役場の方々、岳連関係者によ

り整備されたもので高度差50m幅

だった。コース設定は金沢氏(藤

岡)で本人は「ヒマラヤには直接

通しない技術かも知れないが、

岩登りでもトレーニングの必要性

がある。フリーで登る楽しさ」を

強調して自らデモストレッチも務

めた。予選で2位であった塩野氏

(沼田)は決勝で惜しくもホール

ドをはずし、岩登りの基本は忘れ

てはいけなと失敗を反省してい

た。これからの競技会では普段か

らの筋力トレーニングとボルダリ

ングをはじめ高度のフリークライ

ミング技術が必要となるであろう。

なおこの岩場は川場村の関氏をは

じめ役場の方々、岳連関係者によ

り整備されたもので高度差50m幅

だった。コース設定は金沢氏(藤

岡)で本人は「ヒマラヤには直接

通しない技術かも知れないが、

岩登りでもトレーニングの必要性

がある。フリーで登る楽しさ」を

強調して自らデモストレッチも務

めた。予選で2位であった塩野氏

(沼田)は決勝で惜しくもホール

ドをはずし、岩登りの基本は忘れ

てはいけなと失敗を反省してい

た。これからの競技会では普段か

らの筋力トレーニングとボルダリ

ングをはじめ高度のフリークライ

ミング技術が必要となるであろう。

なおこの岩場は川場村の関氏をは

じめ役場の方々、岳連関係者によ

り整備されたもので高度差50m幅

だった。コース設定は金沢氏(藤

岡)で本人は「ヒマラヤには直接

通しない技術かも知れないが、

岩登りでもトレーニングの必要性

がある。フリーで登る楽しさ」を

強調して自らデモストレッチも務

めた。予選で2位であった塩野氏

(沼田)は決勝で惜しくもホール

ドをはずし、岩登りの基本は忘れ

てはいけなと失敗を反省してい

た。これからの競技会では普段か

らの筋力トレーニングとボルダリ

ングをはじめ高度のフリークライ

ミング技術が必要となるであろう。

なおこの岩場は川場村の関氏をは

じめ役場の方々、岳連関係者によ

り整備されたもので高度差50m幅

だった。コース設定は金沢氏(藤

岡)で本人は「ヒマラヤには直接

通しない技術かも知れないが、

岩登りでもトレーニングの必要性

がある。フリーで登る楽しさ」を

強調して自らデモストレッチも務

めた。予選で2位であった塩野氏

(沼田)は決勝で惜しくもホール

ドをはずし、岩登りの基本は忘れ

てはいけなと失敗を反省してい

た。これからの競技会では普段か

らの筋力トレーニングとボルダリ

ングをはじめ高度のフリークライ

ミング技術が必要となるであろう。

なおこの岩場は川場村の関氏をは

じめ役場の方々、岳連関係者によ

り整備されたもので高度差50m幅

だった。コース設定は金沢氏(藤

岡)で本人は「ヒマラヤには直接

通しない技術かも知れないが、

岩登りでもトレーニングの必要性

がある。フリーで登る楽しさ」を

強調して自らデモストレッチも務

めた。予選で2位であった塩野氏

(沼田)は決勝で惜しくもホール

ドをはずし、岩登りの基本は忘れ

てはいけなと失敗を反省してい

た。これからの競技会では普段か

らの筋力トレーニングとボルダリ

ングをはじめ高度のフリークライ

ミング技術が必要となるであろう。

なおこの岩場は川場村の関氏をは

じめ役場の方々、岳連関係者によ

り整備されたもので高度差50m幅

だった。コース設定は金沢氏(藤

岡)で本人は「ヒマラヤには直接

通しない技術かも知れないが、

岩登りでもトレーニングの必要性

がある。フリーで登る楽しさ」を

強調して自らデモストレッチも務

めた。予選で2位であった塩野氏

(沼田)は決勝で惜しくもホール

ドをはずし、岩登りの基本は忘れ

てはいけなと失敗を反省してい

た。これからの競技会では普段か

らの筋力トレーニングとボルダリ

ングをはじめ高度のフリークライ

ミング技術が必要となるであろう。

なおこの岩場は川場村の関氏をは

じめ役場の方々、岳連関係者によ

り整備されたもので高度差50m幅

だった。コース設定は金沢氏(藤

岡)で本人は「ヒマラヤには直接

通しない技術かも知れないが、

岩登りでもトレーニングの必要性

がある。フリーで登る楽しさ」を

強調して自らデモストレッチも務

めた。予選で2位であった塩野氏

(沼田)は決勝で惜しくもホール

ドをはずし、岩登りの基本は忘れ

てはいけなと失敗を反省してい

た。これからの競技会では普段か

らの筋力トレーニングとボルダリ

ングをはじめ高度のフリークライ

ミング技術が必要となるであろう。

なおこの岩場は川場村の関氏をは

じめ役場の方々、岳連関係者によ

り整備されたもので高度差50m幅

だった。コース設定は金沢氏(藤

岡)で本人は「ヒマラヤには直接

通しない技術かも知れないが、

岩登りでもトレーニングの必要性

がある。フリーで登る楽しさ」を

強調して自らデモストレッチも務

めた。予選で2位であった塩野氏

(沼田)は決勝で惜しくもホール

ドをはずし、岩登りの基本は忘れ

てはいけなと失敗を反省してい

た。これからの競技会では普段か

らの筋力トレーニングとボルダリ

ングをはじめ高度のフリークライ

ミング技術が必要となるであろう。

なおこの岩場は川場村の関氏をは

じめ役場の方々、岳連関係者によ

り整備